

# 被災した野に 大きな花描こう

## 11日、石巻2会場

### アートイベントで心の再生

東日本大震災の犠牲者の鎮魂と被災地の復興を願いながら子どもたちが大きな花の絵を描くイベントが11日、石巻市の旧門脇小体育館と中瀬公園の2会場で開催される。参加対象は、幼児から高校生までの石巻圏の子どもたち。当日も参加を受け付ける。

イベント名は「石巻11アー が運営に当たる。トイベント2015 被災野 2部構成で、午前9時半から大きな花アート」。復興庁の1部は2会場それぞれ「心の復興」事業に採択された。主催は石巻出身で、東京で空間企画デザイン会社を経営する佐久間智子さんと東京の画廊経営者らで組織する「花とアートで再生復興プロジェクト委員会。地元をはじめ、市民有志でつくる実行委員会と復興祈念の舞、華道の石草

### 子どもたちの参加呼び掛け

完成作品展示 出来上がった花の絵は12、19日、石巻市茜平のイオンモール石巻2階フードコート前に展示。生け花は12、15日、石巻市千石町の石巻ランドホテルロビーに展示する。実行委員会は「一般も参加できます。熱中症対策をしっかりして参加してほしい」と呼び掛けている。当日は弁当、飲み物、雑巾などをそれぞれ持参すると。連絡先は実行委事務局の宝さん090(58338)5905。

### 中学チーム熱闘「絆甲子園」

東日本大震災の被災地と関東地方などの中学生硬式野球チーム(リトルシニア)が、試合を通して親睦を深める第5回「絆甲子園」が1、2の両日、石巻市民球場などで開かれた。石巻地方を会場に開かれるのは昨年以降、3回目まで、今年から開催され、3回目までには続きついで、こちらも熱い

特別ゲストで元東京ヤクルトスワローズの宮本慎也さんも訪れ、ベースランニング大会のスタートを務めたり、野球指導をするなどして子どもたちと触れ合った。絆甲子園は震災後の2011年から開催され、3回目までは

### 石巻に集合 地域越え野球交流



オールスターゲームでは本塁打も飛び出した。打った選手はガッツポーズ

を見た。振興会の小林三夫さん(68)は「ハード面の復興はどんどん進んでいるが、芸術や文化を通して心豊かな地域をつくらなければならない」と話した。振興会は震災後、チャリティコンサートの収益金を旧鳴瀬一中に寄付するなど、被災地支援活動をしている。

### 神奈川・大和市から音楽支援

### 心の復興 “音届(おとどけ)”

石巻 仮設など訪問し演奏

音楽を通して東日本大震災の被災地を支援する「音届(おとどけ)事業」として、神奈川県の大和市芸術文化振興会の有志が先日、石巻市河北地区の三反走仮設住宅などを訪れた。クラシック曲や歌謡曲といったさまざまな楽曲が披露され、住民らは庄巻の演奏に聴き入った。

一行は車で石巻市入りし、和瀬小と、川の上地区の百俵館でコンサートを開催。最後に訪れた三反走仮設住宅では、約20人の住民ら

のワルツ」「リトル・マイドメドレー」「川の流れるように」といった曲を披露した。音楽に親しむひとときを楽しんだ無職女性(58)は「夕日と音楽が合っていて、パワーをもらった」と笑顔



大川小訴訟 第5回口頭弁論 裁判長、意向示す 11月13日、現地視察 東日本大震災で石巻市大川小の児童と教職員計84人が死亡・行方不明となり、犠牲になった児童23人の19家族が、県と市に計23億円の損害賠償を求めた訴訟の第5回口頭弁論が3日、仙台地裁であった。市側は準備書面で、津波の予見可能性や結果回避義務違反などを否定。「大川小が津波避難場所として指定されていたことなどから、教職員らが地震前に津波を予想できなかったことはやむをえない。校庭にいた方が安全という話もしていない」と主張した。遺族側は、当時3年生だった長女を亡くした只野英昭さん(44)が意見陳述。「真実が語られないまま時間だけが過ぎてきた。全ての原告が今も悲しみを抱えている。事実を明らかにすることがお互いのためになる」と述べ、当時学校にいた教務主任の証人尋問をあらためて裁判所に要望した。高宮健一裁判長は、遺族側が求めていた校舎、校庭裏山の現地視察を11月13日に実施する意向を示した。



住民らに演奏を届ける大和市芸術文化振興会のメンバー